

国際文化学研究科卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1【知識と理解力】

国際文化に関する基盤となる知識を有し、地域社会の国際化や地域文化の多様な価値に関する学術的知識を自ら関わる現場に応用することができる。

DP2【論理的思考力と表現力】

国際文化に関する地域の諸課題を見出し、解決する方法を論理的に導くことができる。また、専攻分野の研究能力又は高度な職業的専門性をもって自らの思考や判断を的確に表現し、伝えることができる。

DP3【解決力と連携力】

人権を尊重する倫理観に基づき、学術的視点をもって、国際文化に関する諸課題の解決に貢献できる。また、個性豊かな地域文化の進展と人々が生き生きと暮らす社会の形成・創造にむけて地域社会の多様な人々と連携することができる。

国際文化学研究科修士論文審査基準

学位申請者が提出した修士論文を、主査1名、副査2名が審査する。

審査基準は以下の通りとする。

【審査基準】

1. 研究テーマの適切性（DP1）

研究目的ならびに研究の意義が明確に示され、課題設定が適切になされていること。

2. 情報収集の適切性（DP1）

当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、必要なデータや資料の収集と吟味が適切に行われていること。

3. 研究方法の適切性（DP2）

研究目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方、倫理的配慮も含めて、適切かつ主体的であること。

4. 論旨の妥当性と新たな知見の提示（DP2）

全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな知見が提示されていること。

5. 文章作成能力（DP3）

文章全体が確かな表現力によって支えられており、なおかつ修士論文として必要な体裁を有していること。

国際文化学研究科修士制作審査基準

学位申請者が提出した修士論文を、主査1名、副査2名が審査する。

審査基準は以下の通りとする。

【審査基準】

1. 研究テーマの適切性（DP1）

研究目的ならびに研究の意義が明確に示され、課題設定が適切になされていること。

2. 情報収集の適切性 (D P 1)

当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、必要なデータや資料の収集と吟味が適切に行われていること。

3. 制作の妥当性と新たな表現手法の提示 (D P 2)

全体の構成も含めて制作の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな表現手法が提示されていること。

4. 研究方法の適切性 (D P 2)

研究を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方、倫理的配慮も含めて、適切かつ主体的であること。

5. 表現能力 (D P 3)

制作物ならびに報告書が確かな表現力によって支えられており、なおかつ修士制作として必要な体裁を有していること。